

10月



あの日のあの川 リレー日記 ～第58話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第58話主人公 池田望

(筑波大学 理工学群 工学システム学類 環境開発工学主専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：群馬県蛇川)

「清流とのふれあい」

いつのこと？：小学生

どこの川？：群馬県南牧川

皆さんこんにちは。早川さんよりバトンを受け取りました、筑波大学白川研究室の池田望です。幼少期に体験した川での記憶について、拙い記憶ではありますが、何とか掘り起こして書き綴ってみたいと思います。少しの間お付き合いください。

小学3年生の夏休みのこと、私は家族とともに、群馬県の南牧村という場所へ2泊3日のキャンプをしに行きました。南牧村周辺は、人が暮らしている集落も存在するものの、山奥に行くにつれゴースタウンと化したところが多く見られるような所でした。目的地であるキャンプ場はその山奥にあったため、そんな景色の中を延々と進んでいくのですが、道を進むにつれて人の気配が無くなっていくその非日常の感覚に、まだ幼い自分はかなり恐怖を感じたことを覚えています。

細い山道を進み続け、不安を抱えつつも到着したキャンプ場には、太い木組みに布の張られた大きなテントがいくつかと、ドラム缶風呂、簡素な火起こし場などがありました。そしてそれらの横を、水の透き通った綺麗な南牧川が流れていました。自分の生まれ育った場所では絶対に見られない光景に思わず目を奪われ、しばらくの間立ち尽くしていましたが、小学生の好奇心とは恐ろしいもので、抱いていた不安などよそに、川を探検してみたいという感情が沸々と込み上げてきました。荷物を降ろし水遊びのできる格好に着替えると、すぐに川へ飛び込み、その景色や音、温度などを全身で楽しみました。そうして川の虜となった私は、結果としてそこからの3日間、日が出ている時間の大半を川の中で過ごすことになります。

南牧川の中で、それほどの長い時間何をして遊んでいたかについては、はっきりと思い出すことができません。ただ、お世辞にも自然が多いとは言えないような場所で暮らしてきた私にとって、見渡す限りを自然に囲まれたような環境で何日も過ごすというその経験自体が、非常に新鮮で魅力的なものであったことは間違いないでしょう。実際に自然の中に身を置くことで初めて得られる、普段とは異なった様々な感覚に興味を持ち、子供なりに楽しんでいたのではないかと思います。具体的にどう遊んでいたかを思い出すことは難しくとも、日中ずっと、それこそ水の冷たさによって唇の色が変わるほど川に浸かっていたあの時は、とにかくとても充実したものであったと記憶しています。

そうして、電気も水道もなく、不便ではあるものの楽しかった3日間は、あっという間に終わりを迎えました。しかし、南牧川に魅了された私は、翌年の夏休みにもそのキャンプへ連れて行ってもらい、同じように川で遊ぶということを繰り返しました。ある年の台風によってテント等の設備が流されてしまい、土砂災害等のためにその場所を訪れることが出来なくなってしまうまでの間、毎年遊びに行っていました。

災害後その場所を訪れなくなってから、長い月日が経ってしまいましたが、私が大学4年生になった時のこと、偶然にもその場所の近くを通る用事ができました。かつて遊んだ場所自体には訪れることができないものの、ずっと入っていたあの川の姿を、少し離れた場所からでも良いからもう一度見てみようと思い、立ち寄ってみることにしました。川の景色は、小学生のあの頃から変わっておらず、美しいままでした。この時私は、この自然の景色がいつまでもずっと残っていてほしいと思いました。

かつて美しかった川が、今もその姿のままで在り続けているような場所は、世界にどれほどあるでしょうか。そして、今なお美しさを保っている川は、将来どれほど残っているのでしょうか。誰かの思い出に残っているようなその姿を守るために、私たちに何ができるのかを考えて生きていくことは、とても大切なことではないかと思います。私自身も、そんなことを考えつつ生活を続けていきたいと思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

(次は宇佐美将平さんにバトンを託します)